

## 軽みとおかしみと

飄

々

広報委員

岸本 千種

緑陰随筆の原稿募集のお知らせが、本号に載っている。

4 月号の長谷川理事の編集後記でも「8 月号の緑陰随筆、散文だけでなく俳句、短歌、現代詩、川柳、漢詩、書道、絵画、携帯で撮ったスナップショットもお待ちしております。」とあった。今回の飄々で書こうと思っていたのに先を越された…か。でも、気を取り直して、さらにしつこく書くことにした。

「緑陰随筆」は清涼感に溢れる格調高い四字熟語だが、随筆という言葉のせいか、エッセイや旅行記などの散文以外を見た記憶がない。実は、詩・短歌・俳句・川柳などの韻文も、ずっと前から大歓迎だったのだ。

俳句と言えば、毎月送ってくださる山口市医師会報の「ふしの句会」で、県医師会副会長の今村先生の俳句を楽しみに読んでいる。

木曜午後 7 時からのテレビ番組「プレバト」の俳句も録画して見る。夏井いつき先生が、出演者の作品を、毒舌でぼろくそに添削しながら育てるのを、頷きながら見ている。いざ自分でも作ろうと試すが、さっぱりできない。

2017 年の 7 月、夏井先生の俳句の講演会にも行ってみた。会場の光市民ホール付近は今まで経験したことがない大渋滞で、遠くに駐車してから 20 分歩いて、汗だくでたどり着いた。会場内も超満員。最後尾の列に学生服の一群が陣取っていた。俳句甲子園の強豪校の高校生たちだ。そこだ

けは爽やかな景色であった。その最後尾以外、特に前方で先生の講義を一言も聞き漏らすまいと食い入るように集中している中高年ご一同様の熱気は、まるで夏の野外フェスであった。俳句歴数十年という人もごろごろいた。

私も、講演を聞いているうちに何となくできそうな気になった。後半、「さて会場の皆さんも一句作りましょう」ということになった。焦ってあれこれ考えたが、やっぱり出来上がらないまま時間切れになった。

で、方向転換して、川柳にチャレンジすることにした。

土曜日、仕事が終わった後の車内で、NHK 大阪のラジオ番組「かんさい土曜ほっとタイム」のぼやき川柳をよく聴いていた。サラリーマン川柳も好きだ。

季語がない分、どうにかできそう。川柳の三要素のうち、軽み・おかしみ、これは何とかできそう。穿<sup>うが</sup>ちは、物事に対して側面からの視点で、掘り下げることと解釈した。

私には川柳のほうが合いそうに思った。  
で、作ってみた。

魔法でと聞き間違えたスマホでを  
ママチャリをもみじマークが抜き返す

緑陰随筆、原稿の種類は①随筆、紀行、②短歌・川柳・俳句、③絵、④写真です。

どうぞお気軽に原稿をお寄せください。